

指導のポイント

- 児童が自ら考えを深めたり、整理したりする場面で書く活動を取り入れます。
- 何のために書かせるのか教師自身がねらいを明らかにしましょう。

具体的事例

- 書く活動の目的は・・・

- ・ 児童が自らの考えを深めたり、整理したりするため。
- ・ 学習の中で個別化を図るため。
- ・ 心の成長の記録として活用するため。

児童が自らの考えを深めたり、整理したりするために書く

例：教師の発問後、話し合う前に書くことで・・・

- ・ 児童が発問に対する自分の考えを整理することができます。
- ・ 考えをまとめた後なので、児童が自信を持って話し合い活動に臨めます。



Point

- **すべての発問に対して書かせるのではなく、児童が考えをまとめるために必要だと思われる発問に絞って書く活動を取り入れます。**

学習の中で個別化を図るために書く

例：話し合い活動後に書くことで・・・

- ・ 友達の意見などを参考にしながら、自分の感じたことを整理することで、**自らの考えを深めたり広めたりすることができます。**

今後の目標などを強制的に書かせても道徳的実践力は身に付きません。

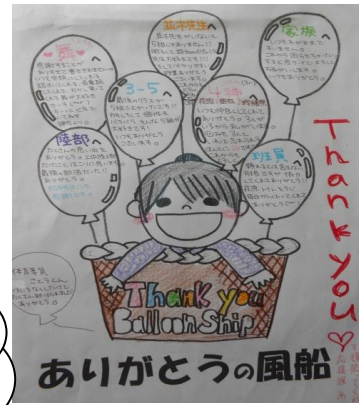
授業後に「運動会でどんなことを頑張りますか」などの決意表明を書かせることは避けましょう。

—児童が書く内容例—

- ・ これまでの自分の振り返り
- ・ 授業で感じたこと、分かったこと
- ・ 今後への思いや課題 など

心の成長の記録として書く

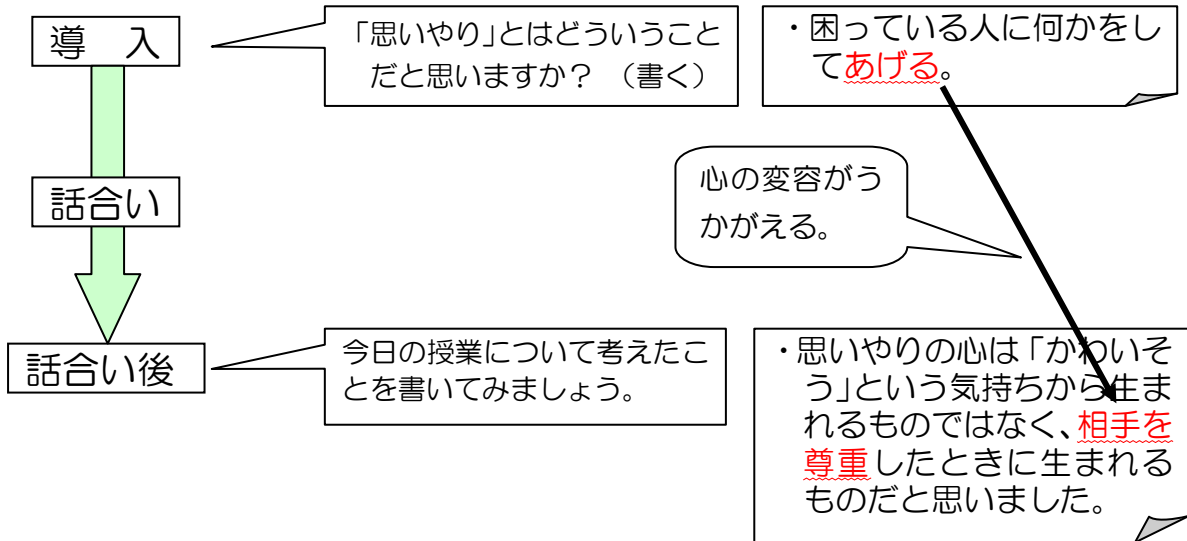
- ・「私たちの道徳」(文部科学省)
- ・道徳ノート
(1冊の綴じられたノートの活用)
- ・掲示物



人に見られるのをいやがる児童もいますので注意しましょう。

児童自身に、自らの心の変容が分かるようにすることで児童の意欲は高まります。

— 授業を通して自らの心の変容に気付かせる例 —



留意点

- 書く活動においては、書くために必要な時間を十分確保することが大切です。
- 児童が書いたものは、コメントを書いて返却すると児童の励みになります。

頑張る